

2015年1月14日 記録

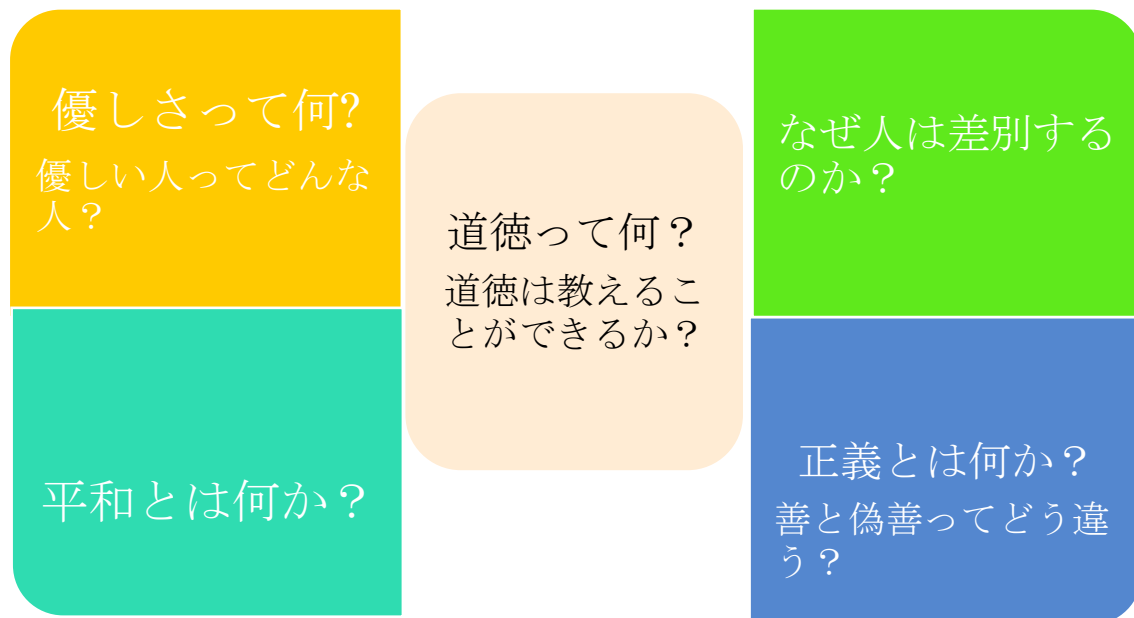
## P4C を用いた道徳の授業の例

梶形公也

この授業例は中学校二年生が実際に行った対話をもとにして作成されています。

教師は生徒に授業のための P4C ジャーナル（評価シート）を配る。

板書： 生徒が関心を持ったテーマの中、下記のことを板書する。



（以下の対話録のうち T は教員の発言、名前はすべて架空の名前を用いています。梶形によるコメントは脚注で書き込んでいます。）

発言者は手を挙げ、コミュニティボールを受け取ってから話す。

T：前回みんなが書いてくれたテーマをいくつか挙げた。道徳の授業ということで、「道徳って何？」を中心に挙げたけど、他のテーマを選んでくれても結構。

どれにするか挙手で決める。「道徳」は 1 名、「正義」は 30 名、「差別」は 3 名、平和は 1 名、「優しさ」は 2 名。ということで、「正義」を論じることになった。

T：それでは「正義」について意見のある人は手を挙げて。

(最初はすぐに手が挙がらなかった)

**たかし**：世の中の正しいと思われていることを行う。例えば、うーん、うまい例が浮かばない・・・<sup>1</sup>。

**あや**：正義は様には決まらない<sup>2</sup>。例えば、アンパンマンとバイキンマンの話で、普通はアンパンマンがバイキンマンをやっつける、それはバイキンマンが悪事をしたからとなるが、バイキンマンの側からすれば、アンパンマンに暴力を振るわれるのだから、アンパンマンは正義を実行しているとは言えない。

**たかし**：正義はみんなが認めているもの。バイキンマンは悪事をしたのであって、それをただすということは正義。

**ふみ**：私は人によって違うと思う。差別をすることを正義だと思っている人がいる。

**つとむ**：私もふみと同じ。人それぞれで、国によっても違う。

**けんじ**：(ボールを受け取って少し考えながらも、パスしようとした。すると、周りで「早くしろ」というような声上がる<sup>3</sup>。)正義は悪い人を捕まえて、懲らしめること」だと思う。

**たかし**：みんなに質問したいのだけど、正義とは悪いことをただすことだと思うけど、その悪いことの定義はどうなるだろうか？

**あや**：例えば、どういうこと？

**ふみ**：正しいとは何なのか？人によって違うというけど<sup>4</sup>。

**T**：悪いことって何？例えば、どういうことかな？

**こうじ**：ルールに反すること。

**ひろみ**：快適に過ごすことを妨げること。

**T**：悪の定義、正義の定義って何？正義は人によって、国によって違うの？<sup>5</sup>

**しんご**：正義は一つだと思う。全体としてみたとき、自分の利益を守ってくれること。

(議論が少し進まない状況になる。発言が続かない<sup>6</sup>。)

**T**：何もないですか？・・・。自分にとって利益となることを守ってくれるのが正義と言ったけど、具体的にはどういうこと。生活の中での正義ということかな？<sup>7</sup>

<sup>1</sup> 以下の発言から分かる通り、たかしはリーダーシップを発揮している

<sup>2</sup> ここからしばらく、「正義」あるいは倫理的な事柄の相対性と普遍性(絶対性)を巡る議論となる。

<sup>3</sup> このような場合は、教師はすぐに注意して、発言者の発言を待ち、促すようにする。

<sup>4</sup> このような発言が出た場合、「正しい」「正義」「ただす」というような言葉を含む文章を、グループを作らせて、一緒に考えさせてその文章を発表させて、「正義」の意味を考えていくという方法がある。(たかしは矯正的正義に言及)

<sup>5</sup> 生徒の発言によって、教師自身も考えさせられていることを示している。

<sup>6</sup> このような場合、ボールをみんなで回して意見を表明してもらおう手がある。「みんな正義って何だと思う、自分の意見を言ってくれる。特に意見がなければパスしてもいいよ。」

<sup>7</sup> このファシリテートの仕方は素晴らしい。

**しんご**：(ボールが回ってきて、かなり考えている。)

**たかし**：自分が守りたいこと、しんごが守ろうとしていることを言えばいいんじゃない？<sup>8</sup>

**しんご**：(無言)

**あや**：しんごは応えてくれないけど、自分が守りたいことって言っていたけど、何か困ることがあって、大切なものがはっきりしてきて、そこに正義というものも見えてくるのでは？守られる立場から守る立場になると。

**ともこ**：悪って何？<sup>9</sup> 盗みは悪い。盗んだ人を捕まえることは正しい。盗みをした人にもそれなりの理由はあるかもしれないけど、多くの人の考えでは、それは道を外すことであり、それが悪なのでは？

**ふみ**：一つの国が一つのことを信じて、信じ切ってしまうと、それが正義となってしまう。でも、正義とはそういうものではないと思う<sup>10</sup>。

**たかし**：個人の正義と団体の正義がある<sup>11</sup>。家族が殺された場合、遺族は殺したものを殺す、仇討ちをする。それを仕方がないと考えることもできるけど、人殺しは正しくない。団体にとっては、正義ではない<sup>12</sup>。

**ともこ**：正義はゆるぎないもの。だから、大多数が賛成している。仇討ちは人殺しであって悪いことであり、どうするかは法律を作って、大多数が賛成するようにするのが良い。

**しんご**：正義は決まりがあって、それに従うこと。そして、決まりに反することを罰することが正義<sup>13</sup>。

**T**：仇討ちということが言われたけど、殺された人の家族が殺した人を殺しに行く。これは殺人であるが、殺人は正義ではないはずだが、仇討ちは正義か？<sup>14</sup>

**ゆみ**：それは正義ではなくて、単なる復讐。

**あや**：被害者側が殺すということは、くやしきからの行為<sup>15</sup>であって、正義とは言えない。

**ともこ**：先日テレビでオリエン特急のドラマを見たけど、集団で殺人をすることになるけど、それは自分の中の正義に基づいてやっており、自分で判断したことである。

**たかし**：仇討ちは苦渋の決断と言える。家族が殺されるまでは殺人など考えてもいなかった

---

<sup>8</sup> このたかしの発言も、それを受けた次のあやの発言も、ケア的思考を表現している。あやはさらに一步進んだ意見を述べている。(権利としての正義)

<sup>9</sup> ともこは意見が少し行き詰まっていると感じたのか、もう一つのテーマ「悪」を提示する。

<sup>10</sup> この、ふみの発言は、先に述べた、人によって、国によって違うということと矛盾しているのではないか。ファシリテータはこれを指摘することができる。「ふみは正義は人によっても、国によっても違うって言ったよね。今も一つの国が一つのことを信じて、信じ切ってしまうと、それが正義となってしまう。そう言いつつも、正義とはそういうものではないと思うと言ったけど、どういうことが説明してくれる。」

<sup>11</sup> たかしはここで、最初の自分の発言をフォローしている。矯正ということを出して説明

<sup>12</sup> ここから議論は個人と共同体の正義というテーマ、さらに仇討ちをめぐる展開していく。

<sup>13</sup> しんごのこの発言はたかしの意見と同じであるが、しんごは自分の意見として述べている。議論の進展の中で、しんごは、最初に自分が言ったこと、「全体としてみたとき、自分の利益を守ってくれること」ということで言いたかったことが、法の順守と、矯正ということであったことが分る。

<sup>14</sup> この問題は、戦争や死刑や正当防衛の問題と絡む。倫理的には二層理論と言われる。

<sup>15</sup> あやは正義とは言えないというが、「正義」の感情は怒りであり、悔しさである。この後の、たかしやふみやのぶおの意見とも関係していく。私怨や復讐を公的な制度として、保証するのが国家の法律であろう。(正しい配分がなされないと、私たちは怒りの感情を抱く。配分的正義。権利と結びつく。)

たけれど、やむなく仇討ちをする。だから、正義でもあり不正義でもあると言える。

**ふみ**：仇討ちは復讐のためかもしれないけど、殺した人に対して、自分がやったことを知らしめるための手段でもあり、もしかしたら正義かもしれない。

**ゆみ**：仇討ちというと、赤穂浪士の話があるけど、これを正義と言っているけど、自分の欲を満たすために正義という言葉を使っているにすぎない。それは正義では全くない。自分で正義と言っているだけ<sup>16</sup>。

**のぶお**：仇討ちをする前、加害者は悪をした。そこで、その加害者を殺す。これは偽物の正義<sup>17</sup>と言っているかもしれない。悪を打壊すために力を使う。これは正とも悪とも言える。

(そろそろ時間が無くなってくる)

**あや**：まとめると、アンパンマンにしろ、仇討ちにしろ、それぞれの立場からすれば、正義は異なってくるということでしょう。

**T2**：(コメントを挟む) 赤穂浪士の話は、理解が違っている。(その説明も述べる<sup>18</sup>)

**たかし**：この議論は限がない。どこが正義か分らなくなってきた<sup>19</sup>。

**T**：(最後を受けて) 正義のヒーローとはみんなにとって何か考えてみるのも面白いね<sup>20</sup>。

(生徒からはこれについて話をしたいという雰囲気はかなり感じられた)

#### P4C ジャーナルより生徒の自己評価 (数字は人数です)

	高 (はい)	中間 (マーマー)	低 (いいえ)	無回答
議論に対する評価	14	17	0	5
議論は楽しかったですか	16	17	2	1
安心して話せましたか	4	28	2	2
深く考えることができましたか	24	11	0	1

議論に対する評価は、議論が楽しかったかも含め、高い。安心して話せたかという、マーマーが大半で、いいえという回答も 2 つあったのは少し気になる。深く考えることができましたかでは、24 名がはいと答え、マーマーを入れると大半が深く考えることができたことを示している。

<sup>16</sup> ゆみの発言は非常に力がある。ことによったら吉良家あるいは彦根とつながっているか。

<sup>17</sup> 面白い発言である。力(暴力)をもってする矯正をどう考えるかということ。力と正義の関係。

<sup>18</sup> 喧嘩両成敗のはずが、そうではなく、浅野内匠頭にのみ責任を取らせたという解説。公正としての正義が問題。

<sup>19</sup> P4C の授業はもう 20 回近くおこなったということだが、たかしのこのような発言も、P4C の一つのねらいである。今後、たかしがこの問題に関して自分でもっと考えられるようになること、みんなと議論しあうことを希望する。

<sup>20</sup> 赤穂浪士の話にしても、必殺シリーズにしても、水戸黄門にしてもいろいろ勧善懲悪の話はある。これらを題材にして、正義を考えるのは日本文化理解にとっては有意義である。「義理と人情」の問題もある。西洋の正義論というものがあるとするれば、その比較研究もでき、将来子どもたちがグローバルな状況で、日本人としての自覚をもってこの問題を論じる基盤となる。仏風刺週刊紙「シャルリエブド」も話題としてつながってくる。

### 全体的なコメント（楯形による）

- ★ 議論は非常に興味深かった。子どもたちが自分の意見を述べていたのが素晴らしい。自分の知識をひけらかす場面がよくあるのですが、そのようなことが全くなかった。
- ★ できれば、今後、時間をもっととり、じっくりと話をしていけるようにするのが望ましいでしょう。あるいは、今回のこの記録を子どもたちが自ら読んで、自分たちで何が問題となっているのかの問いを作らせるということも考えられます。また、生徒は今日の議論を受けて、自分の考えや疑問を P4C ジャーナルに書いています。そして、「正義は立場によって違う」という考えの生徒が大半を占めていました。これは、議論の趨勢に影響されていると考えることもできます。やはり、もう少しみんなで議論を深めていくことが望ましいと思います。
- ★ 教室も、普通の教室を使い、椅子を移動させて空間を作って生徒が輪になって座るといった形態だけでなく、机が小さな輪を作れるような形のものを用意して、いくつかのグループに分け、そのグループで議論した内容を黒板に書いていくというやり方もある。例えば、A グループは、正義とは矯正すること。正義と悪。B グループは守るべき権利。C グループは正義と力。D グループは個人と国家の正義。E グループは公正としての正義、といった内容が出てくるかもしれない。そして、黒板に書かれた内容について、みんなで議論を重ねる。
- ★ 最初から正義が話題になることが分っていれば、文中のコメントに書いたことですが、生徒に「正」「正しい」「正義」という言葉が使われている文章を書きださせて、こちら「正義」の定義に向かうという方法があります。あるいは、あるいは、教師自らが正義の内容を典型的に表しているいくつかの文章を用意しておいて、生徒の文と対照させるという方法もあります。これは、エクササイズとして別の時間をとって実施する方法もあります。
- ★ また、正義という言葉と悪という言葉が対になって使われるような場面もありました。これも、二つの言葉が結びついているような例文を集めて議論することも可能でしょう。
- ★ コメントにも書きましたが、赤穂浪士、必殺シリーズなどの物語や日本の義理と人情の違いを「正義」というテーマを軸に、調べ学習でやったあと、議論すると、現代の問題もクローズアップされ、日本人の発想の固有性も自覚されるかもしれません。

このような議論を重ねていくことによって、生徒はグローバルの国際状況の中で生きていくための基礎を形成することができるでしょう。可能であれば、例えば、オーストラリアやシンガポール等の学校と連携して、このような議論をともに議論しあう場を作ることができれば、素晴らしいことでしょう。